

森永製菓株式会社

会社説明会

2023年11月21日

代表取締役社長 太田 栄二郎

(証券コード：2201)

自己紹介

太田 栄二郎

略歴

- 1959年：兵庫県姫路市生まれ
- 1982年：入社 横浜支店
- 1990年：食品事業本部 食品営業部
- 2000年：北海道支店長
- 2004年：菓子食品営業部長
- 2009年：冷菓事業本部長
- 2011年：取締役就任
- 2014年：営業本部長
- 2015年：取締役常務執行役員
- 2017年：取締役専務執行役員
- 2019年：代表取締役社長**
- 2021年：全日本菓子協会会長就任



▲ 姫路 広嶺中学校時代



▲ 入社2年目 サッカー社長杯



▲ 森永アメリカフーズでの意見交換会

▼ 学生時代にアルバイトをしていたお店
(Grill生研会館)



▼ 愛犬ノノちゃんとお散歩



本日の内容

- 1 会社概要**
- 2 企業理念・2030経営計画**
- 3 サステナビリティ取り組み**
- 4 株主還元**

本日の内容

- 1 会社概要**
- 2 企業理念・2030経営計画
- 3 サステナビリティ取り組み
- 4 株主還元

会社概要

商号	森永製菓株式会社
本社所在地	東京都港区芝5-33-1
創業	1899年8月15日
設立	1910年2月23日
資本金	186億12百万円
連結従業員数	3,076名 (2023年3月末)
グループ会社	連結子会社：16社 非連結子会社：2社
上場取引所	東証プライム (証券コード：2201)



森永製菓 創業の精神

日本にまだほとんど和菓子しかなかった**1899年**
 日本の人々に**栄養価のある美味しい西洋菓子**を届けたい



創業者：森永太一郎

森永製菓 創業の精神



パイオニアスピリット



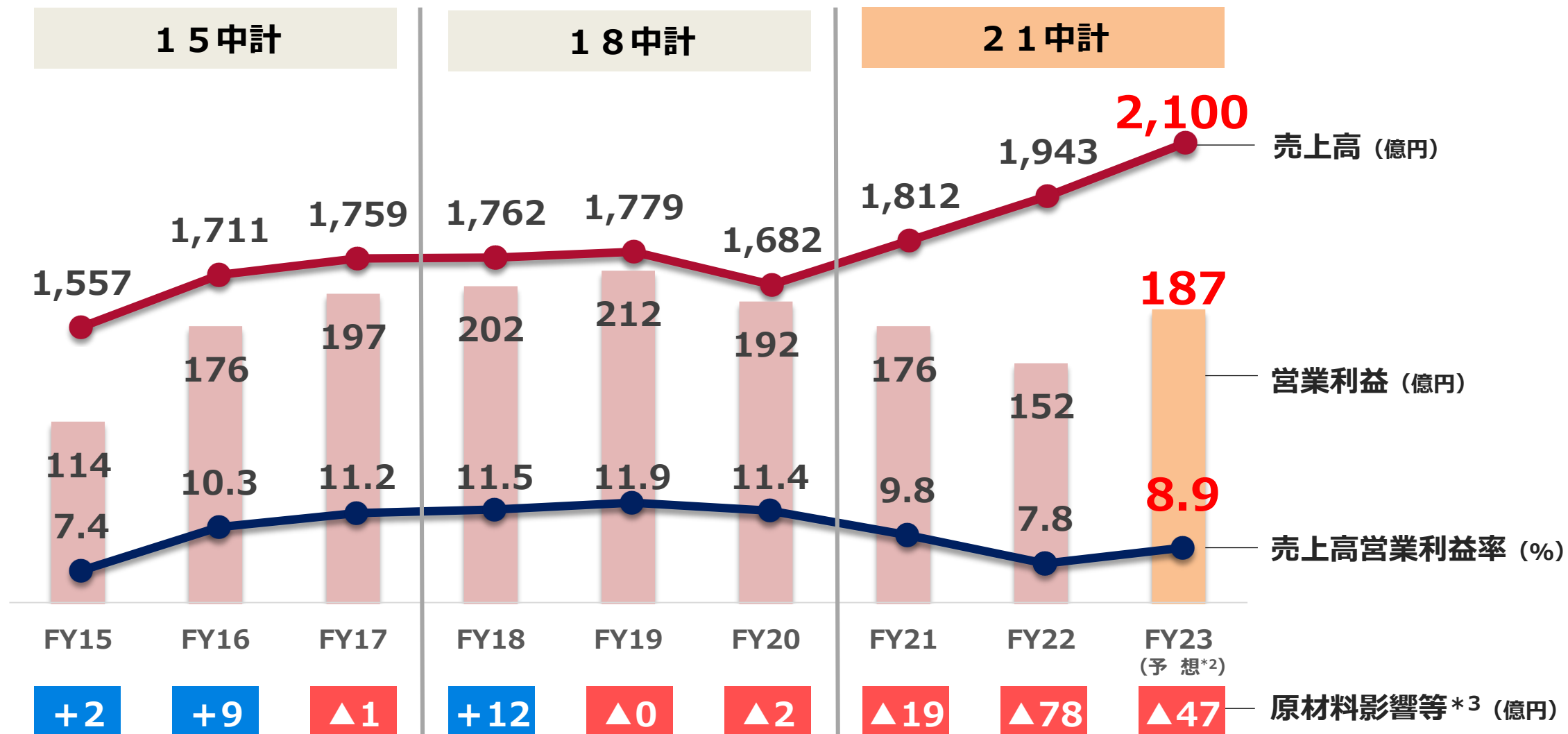
- 1918年（大正7年） **日本初**のチョコレート一貫製造開始
- 1919年（大正8年） **日本初**の飲用ココア発売
- 1919年（大正8年） **業界初**の8時間労働制の導入
- 1920年（大正9年） **日本初**の粉ミルク発売
- 1937年（昭和12年） 「母の日」の普及活動を全国展開
- 1944年（昭和19年） **日本初**のペニシリン製造
- 1954年（昭和29年） **日本初**のバンドオープン導入
- 1960年（昭和35年） 「バレンタインデー」の普及活動
- 1994年（平成6年） **日本初**のスパウト付ゼリー飲料発売
- 2014年（平成26年） **日本初**のチューイングキャンディ・チョコレート
「宇宙日本食」認証 ※ハイチュウ・BAKE



▲創業して間もない1904（明治37）年に従業員の制服制帽を採用



連結業績推移*1

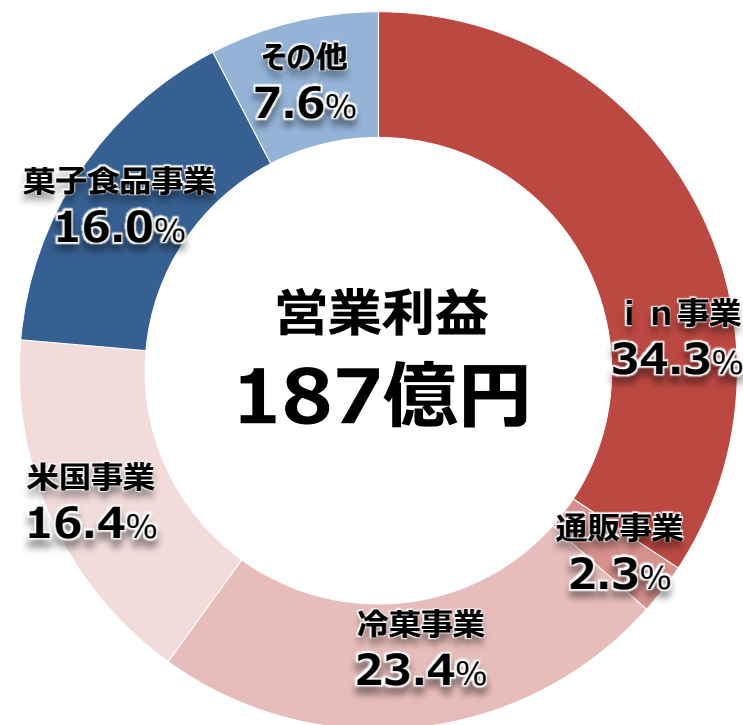
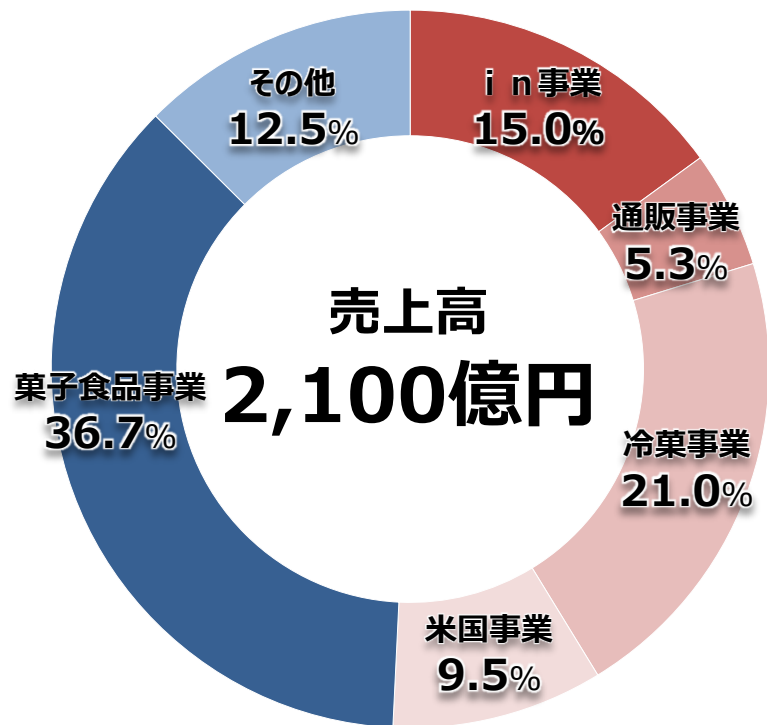


*1 FY21期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を適用
FY20以前の売上高は、当該会計基準等を遡って適用したと仮定した概算値

*2 2023年11月10日における2024年3月期業績予想数値

*3 原材料影響等には原材料相場の他にコストダウン取組や為替相場変動要素、エネルギーコストを含む/森永製菓単体および製造子会社

売上高・営業利益構成 (2024年3月期予想*1)



in事業



通販事業



冷菓事業



米国事業



菓子食品事業

本日の内容

- 1 会社概要
- 2 企業理念・2030経営計画**
- 3 サステナビリティ取り組み
- 4 株主還元

森永製菓グループ企業理念



2030ビジョン

『森永製菓グループは、
2030年にウェルネスカンパニーへ生まれ変わります。』

120年の歴史で培った信頼と技術を進化させ、世界のあらゆる世代のウェルネスライフをサポートしていきます。

3つの提供価値



価値の提供先

2030経営計画 基本方針

- 方針①

事業ポートフォリオの転換と構造改革による収益力の向上

- 方針②

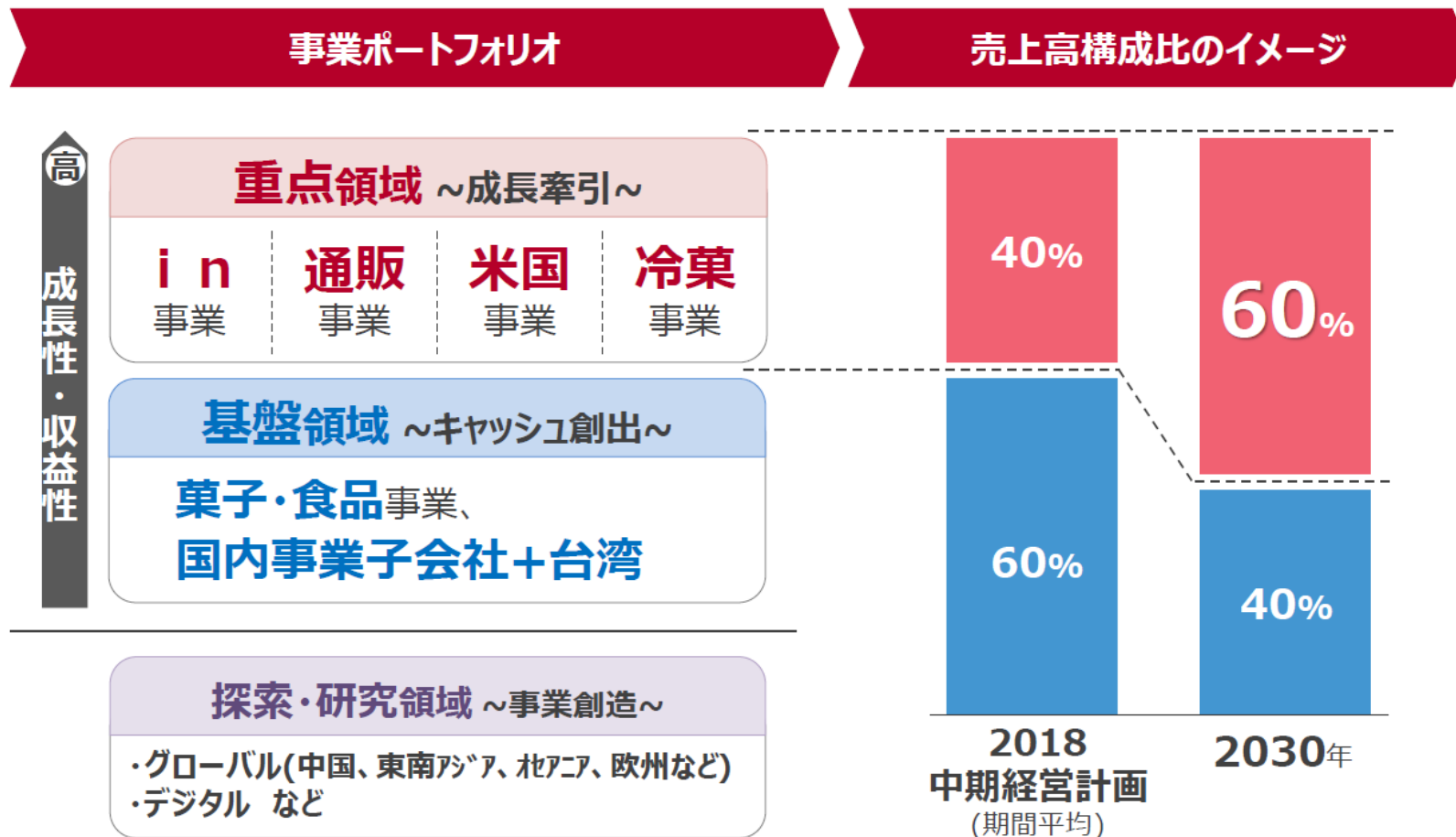
事業戦略と連動した経営基盤の構築

- 方針③

ダイバーシティの推進

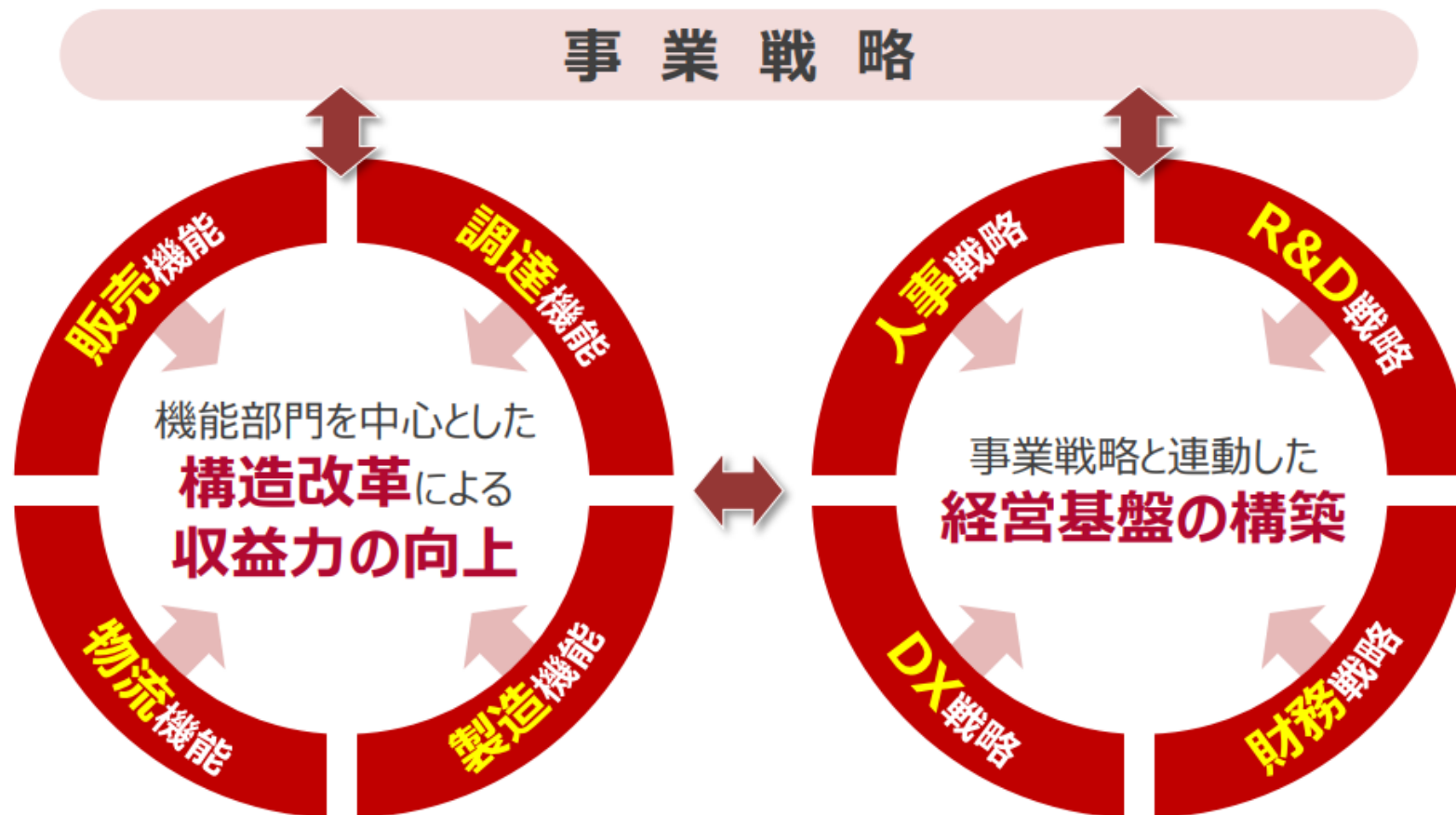
2030経営計画 方針①

● 事業ポートフォリオの転換と構造改革による収益力の向上



2030経営計画 方針②

● 事業戦略と連動した経営基盤の構築



2030経営計画 方針③

● ダイバーシティの推進

ダイバーシティ・ポリシー「一人ひとりの個を活かす」



ダイバーシティ&インクルージョンにより、イノベーションを創造し続ける

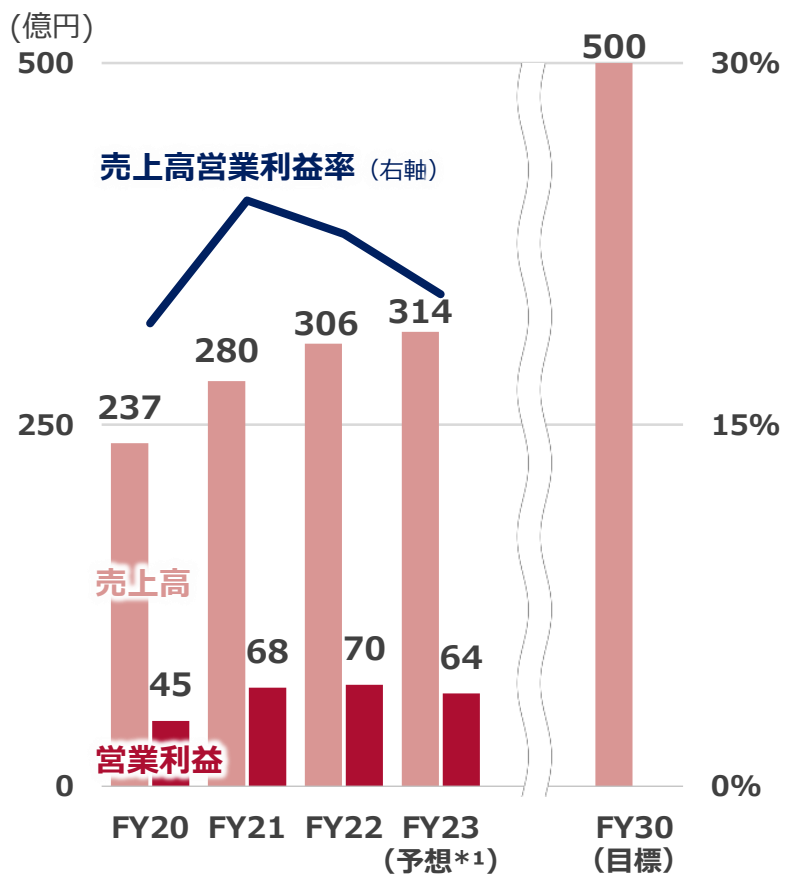
2030経営目標

	18中計実績*1	21中計見込*2	2030年目標
売上高	1,682億円	2,100億円	3,000億円
売上高営業利益率	11.4%	8.9%	12.0%以上
海外売上高比率	7.0%	13.2%	15.0%以上
重点領域売上高比率	約42%*3	51.2%	60.0%

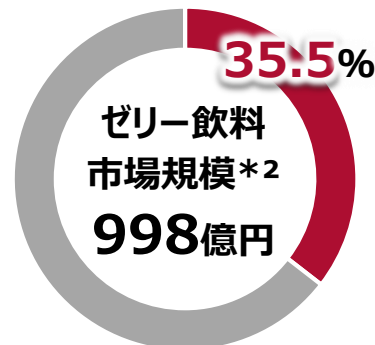
重点領域：i n 事業

ゼリー飲料のパイオニア「i nゼリー」を軸に、高い収益性を誇る事業
 様々な健康ニーズに対応すべく、「i n」ブランドを拡張・強化

2030年目標に向けた進捗



1 i nゼリーの更なる拡大



- ゼリー飲料市場シェアNo.1として市場を牽引
- 飲用シーン・ターゲット拡大の継続取り組み



2 「i n」ブランドを軸にした事業拡大

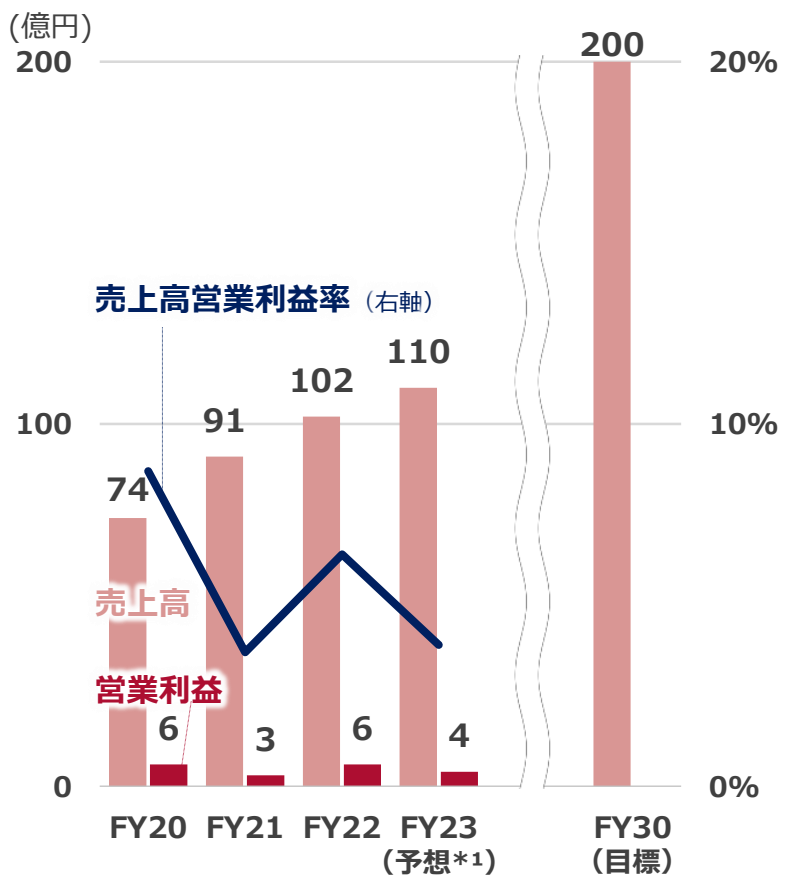


- コーポレートブランドとの結びつきを強化
- i nバー：拡大を見込むタンパク質・食の簡便ニーズ獲得に向けた取り組み
- 新たな食の創造に向けた取り組みも進行中

重点領域：通販事業

お客様のウェルネス実現をサポートするDtoCモデルのヘルスケア事業
顧客データ活用によるCX（顧客体験価値）向上に取り組み、更なる成長を目指す

2030年目標に向けた進捗



1 既存事業の進化

- 売上高は「おいしいコラーゲンドリンク」を中心に好調に推移し、18年連続で伸長中
- 「おいしい青汁」が第二の柱候補として飛躍的に成長中
- 新規顧客の更なる獲得と、定期顧客化への取り組み
- 通販システムを刷新し、データ活用基盤を整備中



2 更なる事業拡大の取り組み

- ダイレクトストアにおける食の領域拡大
- コラーゲンドリンクの海外展開

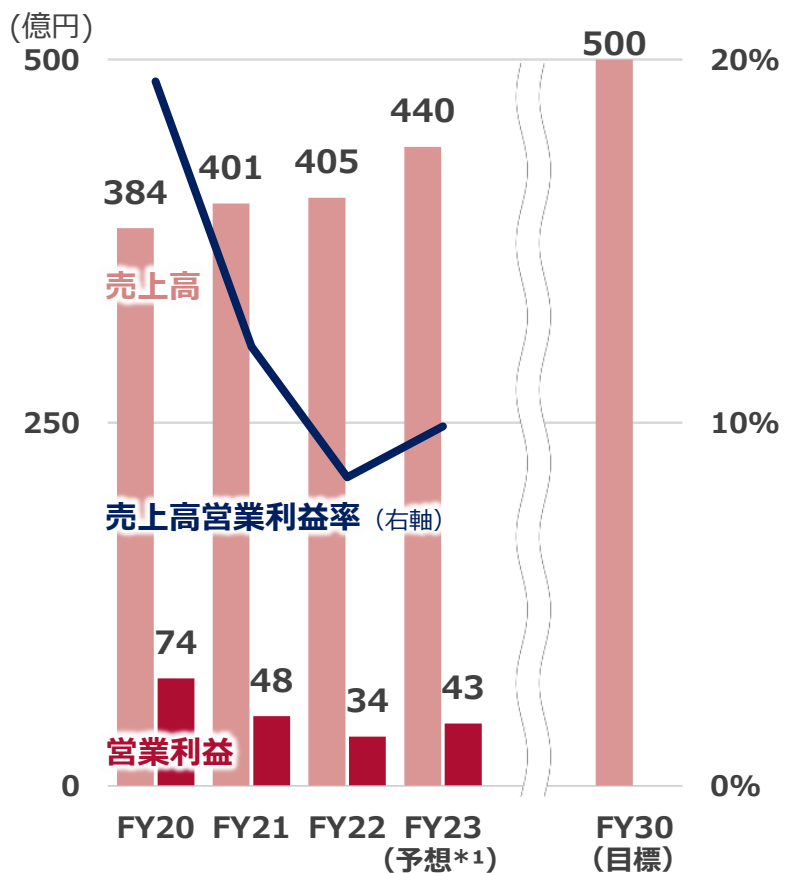


通販限定品発売

重点領域：冷菓事業

ジャンボグループを中心に菓子技術を活用した差別化商品を展開
成熟市場においても着実に事業成長し、シェアを拡大（直近5年で7位⇒3位*2）

2030年目標に向けた進捗



1 ジャンボグループ：鮮度マーケティングを確立した唯一無二の商品

● 鮮度マーケティングの進化

- 「チョコの壁」：パリパリ食感を保持させる品質改良
- 「ジャンボスマイルプロジェクト」：情緒価値を解明する感性研究によりパリパリ食感から得られる価値を深掘し発信を強化



2 菓子技術を活用した差別化された商品群

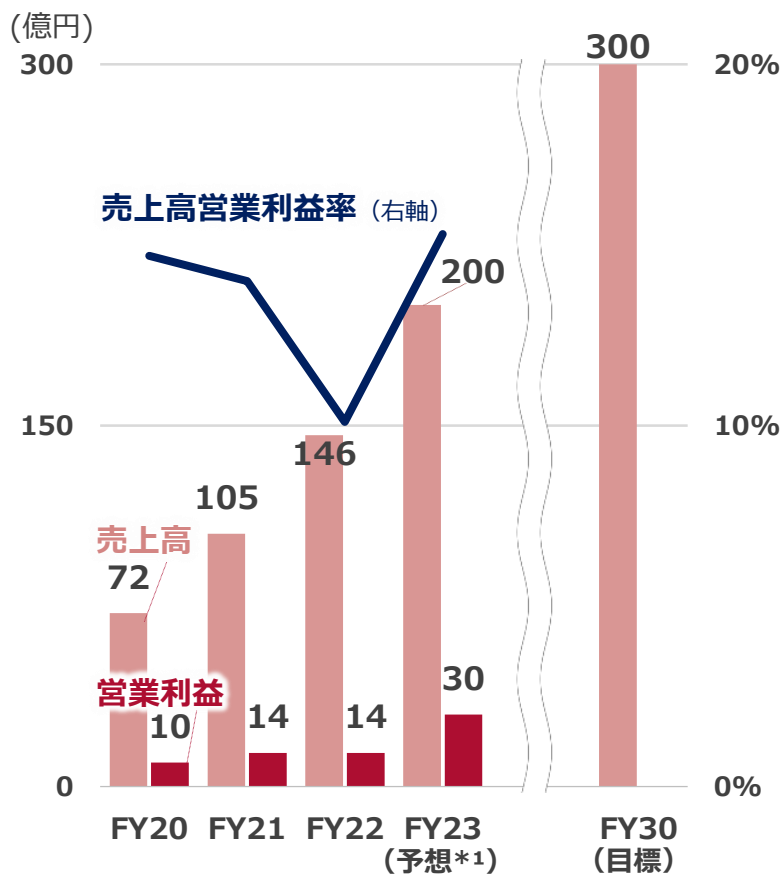
- デザート性が高い商品で冷菓周辺市場からの需要を獲得
 - 板チョコアイス、ザ・クレープなど
- 独自技術を活かし、潜在需要の掘り起こしに挑戦中



重点領域：米国事業

2008年に米国進出し、18中計以降HI-CHEWの売上高は飛躍的に成長
HI-CHEWの更なる拡大とChargelの市場創造を目指す

2030年目標に向けた進捗



1 HI-CHEW ブランドの更なる拡大



- 現地大手スーパーのキャンディ売場に並び、販売店率は全米各地で拡大 20年6月時点 **69%** → 23年6月時点 **77.6%***2
- リアルなフルーツのジューシーな味わいと食感が現地消費者に高く評価、店頭回転も好調
- ブランド認知率 23年時点 **54%** (20年比+8pt)*3

2 Chargel ゼリー飲料市場の創造

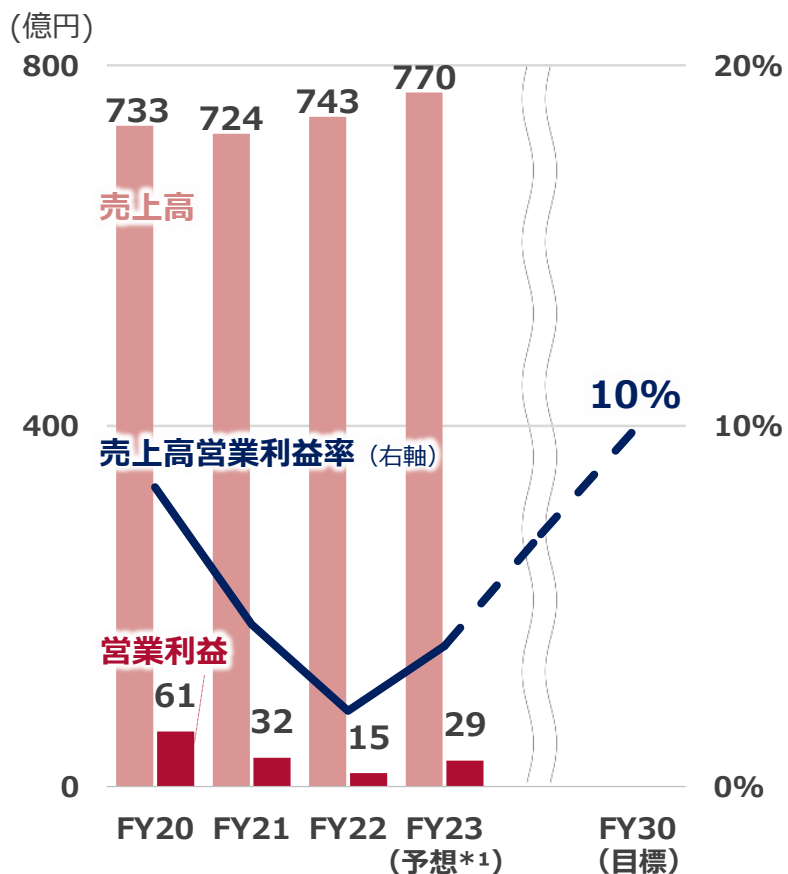


- 2022年2月、「Chargel」というブランド名でゼリー飲料の販売を開始
- ECサイト、日系スーパーをはじめ、取り扱い店舗拡大に向けて取り組み
- スポーツシーンにおけるブランド認知向上に向けた各種施策を積極的に展開

基盤領域：菓子食品事業

カテゴリNo.1のロングセラーブランドを多数保有
収益性の高いキャンディ・ビスケットの売上構成を高め、収益改善を進める

2030年目標に向けた進捗



① 収益性の高いカテゴリの売上構成を拡大

キャンディ



ソフトキャンディ
シェアNo.1(40%)



錠菓・清涼菓子
シェアNo.3(13%)



キャラメル
シェアNo.1(48%)

ビスケット



プレーンビスケット
シェアNo.1 (26%)



チョコレート



スナック



食品



ココア
シェアNo.1(38%)



甘酒
シェアNo.1(32%)



ケーキミックス
シェアNo.1(39%)

② 高付加価値・ウェルネス商品の開発

● カテゴリを横断した商品展開



食シーン提案



ウェルネス

探索・研究領域

グローバルにおけるHI-CHEWブランド展開強化と新規事業の創造を推進中

グローバル展開（エリアの拡大）

東南アジア・オセアニアなど 各エリアでHI-CHEWの取り組みを加速

- 東南アジア：ブランドの浸透が進み販売好調
- オセアニア：NZ ブランド認知向上と共に売上高継続伸長
AUS 発売4年目、着実に成長
- 欧州：市場性・消費者調査よりHI-CHEW受入性は高い
導入および認知拡大に向け取り組み中



新規事業

Passienol™ (パセノール)

- 機能性表示対応の当社独自の食品素材
- パッションフルーツ種子から抽出※したエキスで、
活性成分としてポリフェノールの一種である
ピセアタンノールを豊富に含む ※当社特許技術
- 当社製品への原料活用の他、
海外等へのBtoBも展開



SAI MEAT (サイミート)

Sustainable & Innovative Meat

- 大豆たんぱくと小麦たんぱくを主原料とした、
チキンをイメージした**植物性肉**（動物性原材料不使用）
- 菓子製造で培った当社独自技術を活用※製造特許保有
- 「分厚くて大きな塊肉」の食感、
大豆感がマスキングされた風味



調理例

本日の内容

- 1 会社概要
- 2 企業理念・2030経営計画
- 3 サステナビリティ取り組み**
- 4 株主還元

サステナブル経営

パーパスと2030ビジョン実現に向けた財務・非財務両面におけるマテリアリティに基づき推進

森永製菓グループは、2030年に
ウェルネスカンパニーへ生まれ変わります。

120年の歴史で培った信頼と技術を進化させ、世界のあらゆる世代のウェルネスライフをサポートしていきます。



- 基本方針**
- 1 事業ポートフォリオの転換と構造改革による収益力の向上
 - 2 事業戦略と連動した経営基盤の構築
 - 3 ダイバーシティの推進



サステナビリティ方針

森永製菓グループは、森永製菓グループのパーパスである「**世代を超えて愛されるすこやかな食を創造し続け、世界の人々の笑顔を未来につなぎます**」の実現に向けた企業活動を通じて、持続可能な社会への貢献と当社グループの持続的成長を目指します。

当社グループのマテリアリティ



サステナビリティ主要目標

2030年目標		
持続的な 原材料調達*1	カカオ豆 (コアホライズン認証カカオ等 使用)	100%
	パーム油 (RSPO認証パーム油等 使用)	100%
	紙 (FSC®認証紙や再生紙等 使用)	100%
温室効果ガス (GHG) 削減	2050年度 : GHG排出量	実質ゼロ*2
	2030年度 : CO2排出量	30%削減*3
プラスチック 廃棄物削減	「i nゼリー」のプラスチック使用量	25%削減*4

お客様との共創に向けた取り組み

1チョコ for 1スマイル

森永チョコレートなど 1個につき1円を
「カカオの国の子どもたち」の支援へ



累計金額*1：297,357,539円

継続年数*1：15年

モリナガ・サステナブルHP

アンバサダーのキヨロちゃんと一緒に
「サステナブル」について考える

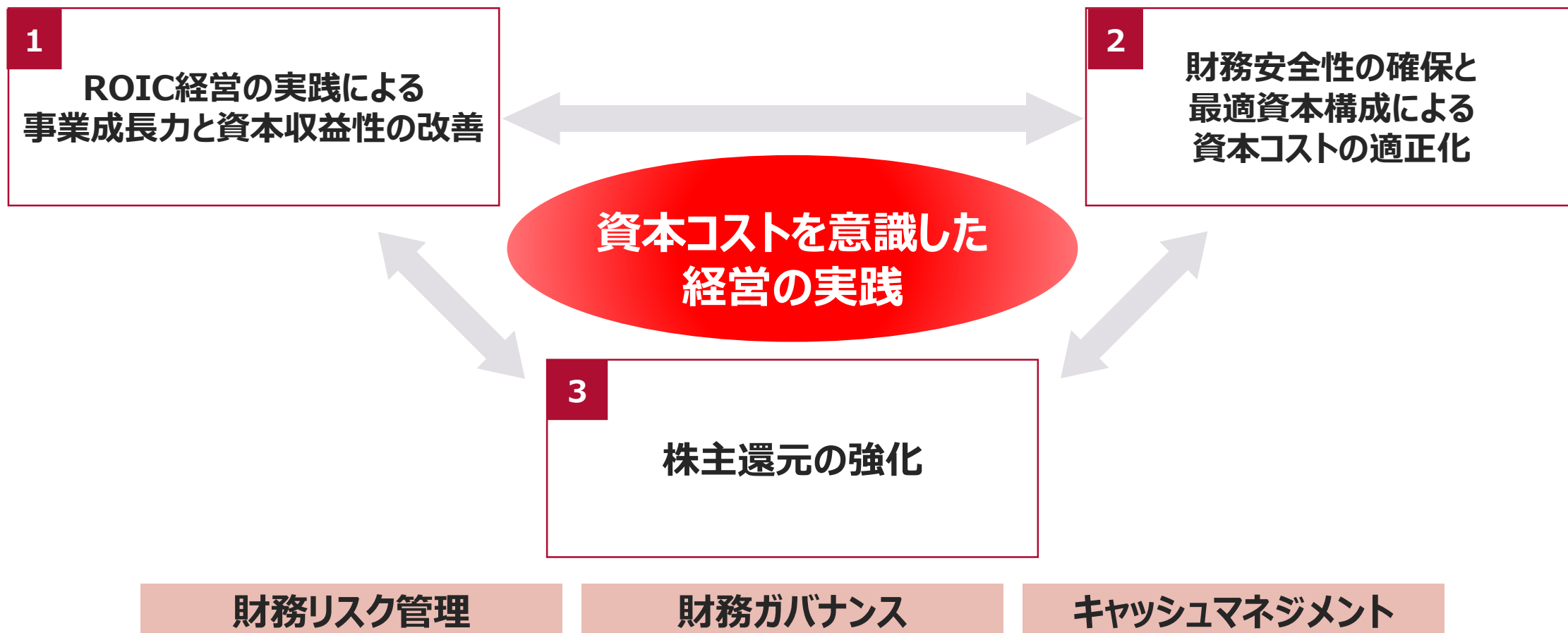
楽しいコンテンツを毎月更新！

本日の内容

- 1 会社概要
- 2 企業理念・2030経営計画
- 3 サステナビリティ取り組み
- 4 株主還元**

中長期財務戦略

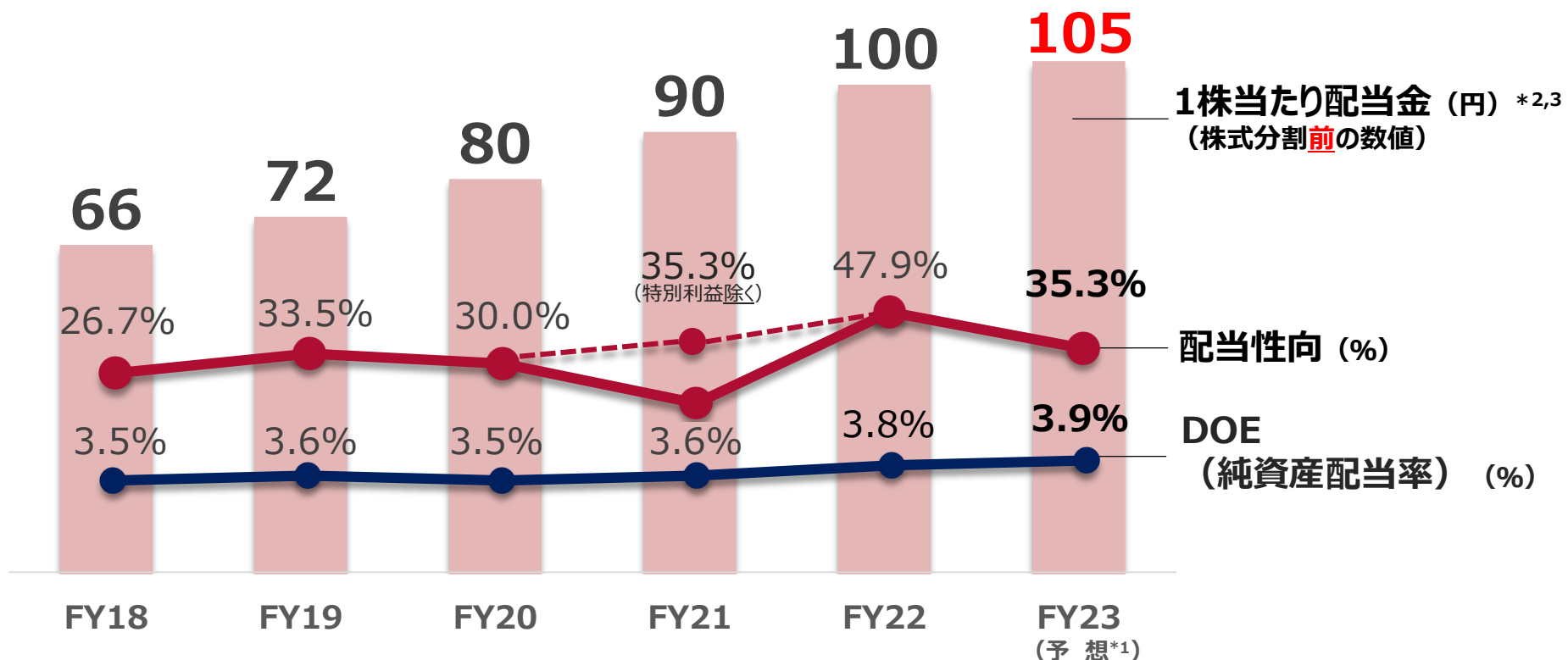
持続的な企業価値向上と継続的かつ安定的な株主還元の実現



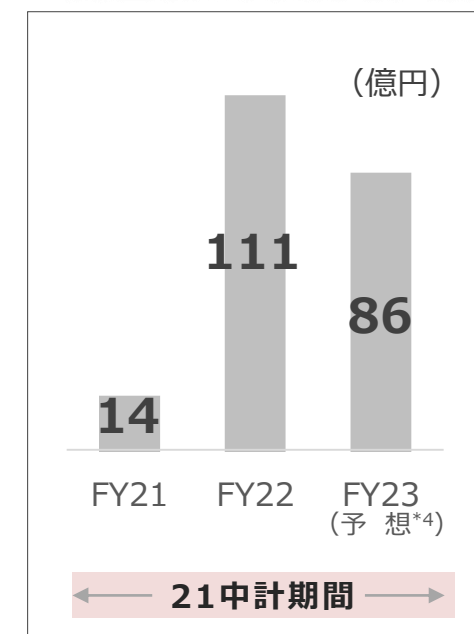
株主還元推移及び株式分割の実施

8期連続増配、2024年3月期も増配を計画

株式の流動性向上と投資家層の更なる拡大を目的として、2023年12月31日を基準日に1:2の割合で株式分割を実施



機動的な自己株式取得も実施



株主優待

当社製品詰合せのご送付または同等金額のご寄付のいずれか選択式にてご用意

(ご参考) 株式分割前

		継続保有期間	
		6か月以上3年未満	3年以上
保有 株式数	100株 ～ 299株	1,500円相当の製品詰合せ または 同等金額のご寄付	2,500円相当の製品詰合せ または 同等金額のご寄付
	300株 以上	2,500円相当の製品詰合せ または 同等金額のご寄付	4,000円相当の製品詰合せ または 同等金額のご寄付

権利確定日
9月30日

**株式分割後の株主優待は決定次第
下記当社ホームページで公開**

森永製菓HP 株主優待ページ

<https://www.morinaga.co.jp/company/ir/stock/benefits.html>

森永製菓製品詰合せ (2,500円相当)



※写真はイメージ

「1チョコ for 1スマイル活動」への寄付



株主様からのご寄付は、当社が展開する「1チョコ for 1スマイル活動」への支援として、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン、特定非営利活動法人ACEへ寄付させていただきます。

(ご参考) IRサイトのご紹介

森永製菓IRサイトではIR情報をタイムリーに発信

IR情報トップ

<https://www.morinaga.co.jp/company/ir/>



個人投資家の皆様へ

<https://www.morinaga.co.jp/company/ir/investor/>





将来予測・業績予想について

本資料には、当社（連結子会社を含む）の見通し、計画、目標など将来に関する記述が含まれておりますが、これらは当社が現在入手している情報に基づく判断や仮定を基礎としたものであり、将来における当社の実際の業績または展開と異なる場合があります。